

次期文化芸術推進計画素案に対する意見対応シート

対応済、未対応、後日対応

1 第6回検討協議会分

項目	第5回検討協議会の主な意見	対応方法
5章以前		
2章文化活動団体	○8ページには、プラッツの登録団体を掲載いただけるということで、事務局と相談しながら掲載したい。	○今後、調整し追加予定
レジリエンスの言葉の使い方	○レジリエンスという言葉を使うのであれば、単語の説明を補足してほしい。 ○新しい外来語は、国や都が使っていくことで認知されていく物だと思う。例えば、「コミュニケーション」や「サービス」という言葉も徐々に使われるようになってきた。そのため、「レジリエンス」という言葉を使うことは賛成だ。「レジリエンス」に限らず、府中市独自の言葉の使い方もあると思うので、新しく取り入れる用語については、注釈や用語集で補足すると親切だと思う。 ○「ウェルビーイング」は簡単な注釈を入れた方が良い。また、他のページに出てくる「シビックプライド」「レジリエンス」も同様に注釈を入れた方が良い。 ○「レジリエンス」は国際社会でも普通に使われる言葉なので、注釈を付けて使い、知ってもらうことが大事だと思う。 ○委員の皆さんから指摘のあった言葉については、注釈や用語集で補足するなどの対応をしてほしい。	○説明が必要な言葉については注釈・用語集を付ける
ページ割について	○仮にページ割を変更しても、計画自体にはそれほど大きな支障はない。 ○目次と順番はこのままで問題ない。	○検討協議会の中で、原案どおりであることを確認。

項目	第5回検討協議会の主な意見	対応方法
	○目次については前回から変更になっており、まとまっている。 ○ページ割は、この素案の流れで特に違和感はない。 ○ページ割りについては、事務局としては、これから実施していく計画の内容に重点を置いて記載したいという意図で今のままの目次構成にしたいと考えているようだ。調査や評価に関しては資料編に持ってきていたいということだったが、その方向性で良いか。	
基本理念の順番	○「つむぐ、ふれる、はくくむ、つながる」については、提案のとおり「つむぐ」を「つなげる」に直すのが良いのではないか。その場合は表紙のタイトルも一緒に変える必要がある。 ○並び順については変更する方向で検討することとしたい。	○委員の意見を踏まえ、「ふれる→はくくむ→つながる→つむぐ」に変更
表紙について	○表紙について、今は、「つむぐ、ふれる、はくくむ、つながる」の関係が三角形の配列になっており、「つむぐ」が上位にあるように見えてしまう。そのため、円で循環するようなイメージで書くと良いのではないか。	○委員の指摘を受け修正
第4章について	○第4章は書いていることが矛盾している。 12ページの目指す姿で使われている「郷土を愛する心」という表現について気になった。これは、元々ふるさとが府中である人達を前提にした言葉なので、新しく移り住んできた人々に対する包摂性が弱いのではないか。目指す姿は、「長い歴史の中で培われた歴史的文化遺産について市民一人ひとりが学び、理解を深めることで、府中に住むことへの愛着や誇りが育まれています」や、「世代や在住年数を問わず市民が学び理解を深めることで、府中の文化に対する誇りや愛着が育まれています」のように記載して、新しく	○委員の指摘を受け修正

項目	第5回検討協議会の主な意見	対応方法
	府中に住み始めた方も含んだ表現にすると、現状と目指す姿の一貫性がある良いのではないかと。 ○重要な指摘だ。郷土という言葉で思い描くものが固定的だったのではないかと。今の指摘のように修正することとしたい。	
5章以降		
推進体制		
推進体制の考え方	○様々な人や団体をつなぎ、コーディネートするような人達が必要だと思った。市民活動センタープラッツも、間に立ってコーディネートしていたりする。 ○まちづくり関連団体や民間事業者が関わりながら、文化芸術の領域で「やってきていること」、「やれること」、「やりたいこと」をイメージ図として明示しても良いのではないかと。 ○障害者団体、福祉団体、子育て団体などに関わって、新たな文化芸術に触れる機会を作る取組を行い、文化芸術分野をより良くしている事例がある。そのような先行事例を踏まえ、府中市の推進体制では、今まで取り組んできたことや、強化したいことを書いても良いのではないかと。 ○商工会と一緒にやることで敷居を下げ、文化芸術をより身近に感じてもらえたという事例がある。府中市でも、けやき並木などでやっている事業があると思うので、その辺りを見せると良いのではないかと。推進体制としてやりたいことにつながると分かりやすいと思った。 ○府中市がしっかりと核を持ち、外部の人達を柔軟に動かしていけたら良いと思う。そうすると、枝分かれ的に障害者など福祉関係の人にも参加してもらえるのではないかと。	○委員の指摘を受け修正

項目	第5回検討協議会の主な意見	対応方法
	○色々な人達を排除しない仕組みを作りながら協働することはつながりの基盤になるので、大きな意味がある。そのように連携する体制がこの表や文章にあると良い。	
マップの示し方	○協働というワードを使っているが、文化芸術の推進につながるということであれば、それぞれの団体からも矢印が出ている方が適切ではないか。協働では、それぞれが対等な立場でコラボしたり、一緒に良いものを作っていくことがあるので、それぞれの得意を生かして次の体制を作っていくことが分かりやすい図にした方が良いと思った。 ○推進体制マップは、財団と府中市が分かれているように見える。市と文化振興財団は一括りで丸をしておいた方が良いのではないか。 ○推進体制マップのイメージは、府中市を中心にして、財団が連携強化のような形で、軸を持って回していく方が分かりやすいのではないか。市民や芸術家・アーティストが連携しても、それは個人での連携になるので、核となる団体が連携を強化してプロジェクトを回す方が軸としてはふさわしいのではないか。また、それを取り巻く連携のまちづくり関連団体や事業者については、イメージをもう少し整理した方が良いのではないか。 ○28ページのマップの見せ方は再考の余地がある。 ○市民・芸術家・文化芸術団体等は周りの全部にそれぞれつながるのではないか。また、点線は府中市内を表しているのか。市外の教育機関、地域活動団体、事業者とのつながりもあるので、分け方をどうするかは難しい。	○文化芸術推進ネットワーク会議（仮称）イメージ図に変更

項目	第5回検討協議会の主な意見	対応方法
	まちづくり関連団体や文化振興財団が、文化・芸術活動を行う方々の間に立つ存在としての役割を担っているのではないか。 ○協働の仕組みを今までと違う形で考えていかないといけない中で、今の絵だと市民には伝わらない。今後、8年かけて目指す姿に到達するためには、重点的にやらなければいけないことを明確に示し、市の職員、市民、指定管理者など皆でPDCAを進めようと宣言しないといけないと思う。推進体制マップの中に記載されている各機関・団体がどんなことをやっているのかを3行程度で書いた上で、これから何をするかの宣言のようなことを記載できると良い。これまでの成功事例も入れると、やることが分かりやすくなる。 ○推進体制の図の中心に、市民・芸術文化団体等と書いてある。そして、その周りに地域の活動団体、まちづくり団体、事業者とあるが、実はこの人達も市民や市内の団体だったりする。 ○推進体制マップが分かりにくい。地域の活動団体には市民も入っている。紫色で市外の文化芸術団体と書いてあるが、図の中心には市内の芸術家・文化芸術・団体が書いている。青い円は市内と市外を区別しているのか、文化団体等の「等」は何を指しているのかなど、ごちゃごちゃしていて分かりにくい。	
前文	○マップの上の文章の末尾について、「それぞれの役割と責任において」の「責任」という言い方はきつい印象を受けた。例えば「立場に応じた役割を担い」の方がふさわしいのではないか。	委員の指摘を受け修正。
各主体の役割		

項目	第5回検討協議会の主な意見	対応方法
各主体の役割	○29ページでは、その団体がどんな団体で、どんな役割を担っているか分かりやすく書かれているので、初めて計画を見る方にも分かっていただけではないか。推進体制マップの図の順番と表の順番が合っている方がより分かりやすい。 ○各機関・団体がどんなことをやっているのかを3行程度で書いた上で、これから何をするかの宣言のようなことを記載できると良い。これまでの成功事例も入れると、やることになりやすくなり、一緒にやろうという気になるのではないか。	各主体による成功体験の事例については分科会で共有されるものだと考えるため、30ページで「分科会では、各団体から市内の活動内容や状況に加え、成功事例や取組の成果も把握・共有しながら、より効果的な施策・事業の実施につなげていきます。」と記載しました。
幸福度につながる進行管理		
文章表現	○「幸福度につながる進行管理」という言葉はこれで良いのか検討したい。 ○「進行管理」という言い方が馴染まない。今までの議論の中で、「幸福度」は「幸福感」になってきている。ここは「幸福度」で良いか。 ○「2. 幸福度につながる進行管理」について見出しの案を考えた。文化芸術施策のPDCAに対する推進体制の文脈だと見出しが唐突で内容にズレがあるように感じた。ここは、文化芸術施策の推進と進行管理の重要性を語っているので、幸福度を直接的な主題にはしていないのではないか。もちろん府中市が幸福度を高めることは理解している。例えば、見出しを「市民の幸福度向上に資する文化芸術施策の推進体制」みたいな言い方もある。施策管理そのものが主題である内容になっているので、幸福度については別の章や総論で語るほうが自然ではないか。なので、オーソドックスに内容と併せると、「文化芸術施策の進行に向けた進行管	委員の案を参考に修正。

項目	第5回検討協議会の主な意見	対応方法
	理」や、「文化芸術を町に根付かせるための推進体制」など内容にあった見出しにするほうが自然ではないか。 ○30ページの見出しについては、皆さんのご意見のとおりタイトル自体を考えないといけない。 ○「幸福度につながる進行管理」について、管理をするものなのか。表現について違和感を持った。ステップの方が適切か。	
事業の進捗管理・推進体制		
ロードマップ	○市として何がしたいかがはっきりしないと推進体制を作れない。 ○ロードマップを作っておかないと、計画に携わる人たちが分からなくなることもあるので、その視点で考えていけると良い。また、以前の協議会で指摘があったが、指標などを細かく書き過ぎることで、途中で変更があったときに柔軟性を欠いてしまうことがある。そうならないようにするためには、どのレベル感で書くのかも重要な視点である。 ○市だけではなく、財団にも変わってもらわないといけないことがある。また、実際に行うのは市ではなかったとしても、市が常に責任を持ってやっていくためには、ロードマップをどのように描くかが重要だ。現場で人を集めて様々な取組を行いながら、アーティスト達がつながってWin-Winの関係になるようなまちづくりが展開され、結果的に府中の文化を豊かにすることにつながれば良いと思う。進行管理でそのことが明確になれば良い。	P30の「進捗管理のイメージ図」を修正。
PDCA サイクル	○この計画の進行もさることながら、次の計画を作るときに何を残すかを含んでおいた方が良いと思った。	P30の「進捗管理のイメージ図」を修正。

項目	第5回検討協議会の主な意見	対応方法
	○進捗管理は、計画に関する進行状況の確認から始めるということなのか。この図では、順番がC、A、P、Dとなり、分科会が進行状況をチェックするように思えてしまうがそれで良いか。この図だけでは、フローが見えない。 ○PDCAサイクルはロードマップとワンセットのイメージがある。テキストではなくグラフとかで表現するのはどうか。 ○進捗管理のイメージはこれで分かりやすいと思う。令和8・9年度の結果を10年度に調査し、足りないところを分科会で検討・推進していくと理解した。個人的には、PDCAの考え方が反映されていると感じた。 ○進捗管理のための調査をこのために追加でやるということか。既にあるデータでチェックするならば、あえて「調査」という文言を入れておく必要はないのではないかと。定量評価は、毎年度の事務事業評価の指標を使うようなので、進捗管理にもその辺りを書いた方が良いのではないかと。 ○ここで一番大事なのは、市として実行計画が載っていることだ。例えば、8年間使ってやるのか、すぐできそうなものは3年でやるかななどを29ページで主体ごとに表現すれば良い。	
活動情報の吸い上げ	○5章については、客観的な情報に基づいて検証していくことが重要だ。情報発信をして計画を市民に広めることで、インスパイアされて地域で取り組んだ成果を吸い上げる仕組みや体制を作ることが重要である。情報発信していく仕組みや、誰からどのように情報を吸い上げるか、どの層に対して集中的に意見を聞くかを共有し、計画の中で触れることができるとう良い。	P30で事業の進捗管理・推進体制で、「分科会では、各団体から市内の活動内容や状況に加え、成功事例や取組の成果も把握・共有しながら、より効果的な施策・事業の実施につなげていきます。」という文章を追加。

項目	第5回検討協議会の主な意見	対応方法
	○市は、積極的に団体とつながることをイメージしている。そうすると、各団体の取組等の情報を吸い上げるためには、このような協議体があると良く、お互いに情報共有してネットワークを広げやすくなるのではないかな。 ○今度の推進体制をどういう風にしていくか考えたときに、府中文化振興財団のどこをどのように活用していくか考える必要がある。美術館が蓄積している府中に住んでいる様々な若いアーティスト達の情報を活用してまちづくりを進め、市民とアーティストが触れ合う場を作っていくことが重要である。 ○現場の人達の活動に関する意見を吸い上げることが重要だ。友の会の人たちなどのコアのファンの人たちがどう感じているのかなどの意見は重要であり、そのような人達とつながって仲間になってもらうことも重要ではないかな。	
数値指標による定量評価	○「数値指標による定量評価」はこの8つで良いのか気になる。他にないのか。例えば、くらやみ祭りの来場者数など市の事業ではない物を指標にするのは難しいかな。市民芸術文化祭の参加者数とは、参加団体数や出演者数ということかな。府中囃子及び武蔵国府太鼓の認知度はどのように測るのか気になった。 ○数値については他にも挙げだすときりがなくなってくると思う。5章より前でも書かれているので、どれを取り上げるか考えた方が良いのではないかな。	数値指標については引き続き検討する（未修正）
その他		
概要版について	○30ページは漢字が多いが、仕方ないことなのか。 ○市の公文書であり、職員が計画に基づいてやっていくための資料という側面もあるため、しっかりと文章で記す必要	概要版を作成し市民に周知を図る。

項目	第5回検討協議会の主な意見	対応方法
	がある。文字が多いのは仕方ない部分がある。そのため、概要版を作って分かりやすくするという方法がある。他の自治体では、子ども向けの概要版を作った事例もある。主体は市民なので、伝えたいことを分かりやすく表現する方法を考えなくてはならない。 ○概要版はあったら良い。この計画の骨子が分かりやすく伝えられるようにして、様々な所に普及できれば良いと思う。	
周知について	○計画が変わったことが、府中の街を歩いて分かるようになると良い。府中市の改札付近はウェルカムムードが無い。府中市美術館のポスターや、芸術劇場でのコンサート情報を駅構内に掲示できたら良い。改札を出るまでに市のPRができるのではないかと。街を歩いている人に「変わった」と気付いてもらうことが大切だと思った。	委員の意見を踏まえ引き続き、検討する。
重点施策について	○推進体制マップでは、地域の活動団体やまちづくり団体などとぼやかすのではなく、もう少し具体的に書けると良い。どのような視点で文化を広げるかを書いても良いと思う。基本的な施策はこれまでやってきたし、これからもやっていくと認識している。その上で、今度の計画では「推進体制を重点的に構築するように努力する」とし、推進体制作り自体を重点施策として記載しても良いのではないかと。	「推進体制の構築」を重点施策にする？（未対応）

2 その他分

委員	主な意見	対応方法
	○下段に記載	
	○「多様な主体と連携した推進計画（協働による取組）」について 提案：計画遂行の為の体制（組織）として、現有施設は具体的に何を、誰がどうしているか？を広く市民に知ってもらうことで、協業の全体像を理解することが可能となるのではないか。※例）総合施設MAP 提案の背景：市民の文化芸術施設認知度更なる向上（知ってもらうことが必要。【どこで where・誰が Who・何 What・何時 When（4W）】を中心に市直営・指定管理・財団・NPO等の運営活動形態も理解できる。市民へ適時情報を公開をすることで“計画運営”が明確化（見える化）され市民の理解納得を得やすくなる。	これまでの協議会で「マップを作ってはどうか」という意見をいただいていますので、ご意見を踏まえて、併せて資料編で掲載したい。
	○「1、多様な主体と連携した推進体制（協働による取組）」について 28ページの文中にあるように、地域の活動団体や教育研究機関なども文化芸術に関わる多様な主体であることに、賛成だ。その上で、体制マップについて、 ①「市民、芸術家、文化芸術等」も並列で並べてよいのではないか ②円を描く連携だけでなく個々の連携も想起させることはできないか	推進体制の図に、ご意見を反映（未対応）
	○下段に記載	

回答票

該当 ページ	該当部分	修正内容	対応方針
7 頁	さらには、郷土の森博物館や府中の森芸術劇場の改修工事や運営における様々な工夫、情報発信の強化など、文化芸術を支える環境の整備にも取り組んでいます。	【意見】 「様々な工夫」が抽象的すぎて具体的にどのような工夫がなされているのかわかりにくい。バリアフリー化、省エネ設計等、具体的に様々な工夫をしている印象を持てる例も示しながら文章を校正した方がより良いのではないか。	未対応（担当課と調整中）
8 頁	こうした中で、文化芸術分野を支える担い手が着実に育ってきています。	【修正案】 これらの活動を通じて、文化芸術分野を支える担い手が着実に育ってきています。	修正済
9 頁	地域の文化資源の魅力を多様な方法で発信し、次世代に継承していくことが求められています。	【修正案】 地域の文化資源の魅力を多様な方法で発信し、受け継いでいくことが求められています。	修正済
10 頁	こうした多様な状況にある一人ひとりの在り方を尊重し、	【修正案】 こうした多様な状況にある一人ひとりの生き方を尊重し、	修正済
10 頁	文化芸術を鑑賞したり、創作や活動に関わったりすることで、心が豊かになり、精神的な満足感や癒しが得られます。	【修正案】 文化芸術を鑑賞したり、創作や活動に関わったりすることで、心が豊かになり、精神的な	修正済

		満足感や癒し、そして新たな学びや発見が得られます。	
11 頁	市内外から人々が集い、文化芸術を通した交流により幸福が生まれるまちづくり	【修正案】 市内外から人々が集い、文化芸術を通した交流により幸福度が高まるまちづくり	修正済
13 頁	府中市史編さん事業による刊行物の発行点数（種類）	【意見】 マンガなどいろんな人が親しみやすく、手軽に読めるものだと良い。	未対応（担当課に提案）
14 頁	新たに府中市に転入した市民への対応	【修正案】 新たに府中市に転入した市民に向けた文化財の紹介・普及	修正済
17 頁	子育てや就労、日本語能力や心身の状態など、様々な事情を抱える方々に配慮した取組が一層求められています。	【修正案】 子育てや就労、日本語能力や心身の状態など、多様な事情を踏まえた取組が一層求められています。	修正済
18 頁	・年齢・性別・国籍・ライフスタイルの違い、障害の有無などにとらわれない対応	【修正案】 ・年齢・性別・国籍・ライフスタイルの違い、障害の有無などにとらわれない取組の推進	修正済
23 頁	市立小中学校全校に対して、美術作品（絵画、彫刻など）の鑑賞機会を設け、子どもたちの美術に対する関心を高め豊かな情操を養うとともに、観覧時のマナーを学び、また、主体的な鑑賞態度を育てます。	市立小中学校全校に対して、美術作品（絵画、彫刻など）の鑑賞機会を設け、子どもたちの美術への関心を高め、豊かな感性や創造性を育むとともに、鑑賞を通じて多様な表現を理解し尊重する姿勢を培います。	未対応（担当課と調整中）

23 頁	博物館活動に関心のある市民にボランティアとして登録してもらい、様々な分野での活動を通して学習意欲やコミュニティ力を高めるとともに、能力を活かした博物館活動を推進します。	博物館活動に関心のある市民にボランティアとして登録してもらい、様々な分野での活動を通して学習意欲やコミュニティ力を高めるとともに、 各自の経験やスキルを活かした 博物館活動を推進します。	未対応（担当課と調整中）
23 頁	館内常設の 公開制作室で作家が作品を制作します。具体的な制作過程を市民に公開し、作品の理解を深め、 また、作家との交流機会を創出します。	【質問】 館内常設とはどちらの場所をさしているのでしょうか。 【修正案】 美術館の1階の 公開制作室で	【事務局回答】 美術館の1階に「公開制作室」という部屋があります。廊下側の壁がガラス張りなので、外から制作の様子が見れるようになっています。 修正案に修正済
26 頁	多様な文化資源の磨き上げと活用	多様な文化資源の 魅力向上 と活用	修正済
27 頁	外国人住民に日本語学習の機会を提供	【質問】 文化に触れる機会の提供ではなく、日本語学習自体を文化課が行うのでしょうか	【事務局回答】 こちらの事業は「多様性社会推進課」という部署が行っています。
28 頁	各主体が互いの立場を尊重しあいながら、それぞれの役割と責任において 文化芸術 の推進に取り組めるような体制の構築に努めていきます。	各主体が互いの立場を尊重しあいながら、それぞれの役割と 機能を発揮し、文化芸術 の推進に取り組めるような体制の構築に努めていきます。	修正済

回答票

該当 ページ	該当部分	修正内容	対応方針
2 頁	東京都の動向（戦略・計画）	【意見】 ここにオリパラ東京のレガシーをデフリンピックに つな げることを通じて、継続的に共生社会の実現に向けた 取組を しているということを入れてはどうか。	修正済
3 頁	府中市では、豊富な文化施設を活用し、文化芸術の鑑賞や体験をしやすい機会を更に提供するとともに、積極的に情報発信を行ってきました。引き続き、市民誰もが鑑賞・体験しやすい機会の提供を拡充していく必要があります。	【意見】 様々な活動が充実しているが、それらが つな がりを持てていないことを入れてはどうか。さらに何かを始めたと思った人が始められるようにしていく、という意味で、鑑賞・体験・活動、としてはどうか。	修正済
3 頁	後継者の育成が進んでいるものの、依然として後継者不足が続いています。	【修正案】 若い人の担い手も増えているものの、活動の勢いが衰えているところもあります。 ※「後継者」という言い方が気になるため。	修正済
3 頁	府中市にゆかりのあるアーティスト	【修正案】 府中市にゆかりのある様々なジャンルのアーティスト	修正済

3 頁	市では、歴史的文化遺産の保存・継承や景観の保全に努めるとともに、このような文化資源を活用したにぎわいづくりも進めています。	【修正案】 市では、歴史文化遺産の保存・継承や景観の保全に努めるとともに、このような文化資源の活用を通じて府中市の文化の更なる普及を図るとともに（市外に向けた、という意味）、にぎわいづくりを進めていきます。 ※市内での理解が進んでいないことも協議会で取りあげられていたため、理解度を上げるニュアンスを入れるのはどうか。	修正済
8 頁	一方で、文化芸術活動が年々少なくなっているほか、	【修正案】 一方で長く活動してきた一部の文化芸術団体では、メンバーの高齢化などで活動が縮小している現象もみられることから、新たな～	修正済
10 頁	多様な背景を持つ人々が出会い、対話を重ねることで、新たな文化芸術や創造的な価値が生まれます。	【意見】 基本理念の説明文の中に、「文化芸術を通じてつながる」ということも入れたい。	修正済
12 頁	写真	【意見】 美術館でのワークショップの写真、文化センターでの取組の写真を追加してはどうか。	未対応（担当課に依頼中）

13頁	施策目標 「市民文化の日」の来場者数（人）	【意見】 「市民文化の日」の来場者数ではなく、認知度にするのはどうか。	未対応（認知度を測る方法について検討中）
17頁	文化芸術を職業として行う市民は約4%にとどまり、在住芸術家の割合も1～2%程度と推定されます。芸術家への支援ニーズは必ずしも高くはないものの、	【修正案】 文化芸術を職業としている市民は約4%（約10400人）、そして在住芸術家として活動している市民は1～2%程度と推定されています（2600人～5200人）。芸術家からの支援のニーズは必ずしも高くはないものの～	修正済
19頁	「公開制作」の事業内容 館内常設の	【修正案】 美術館内	修正案
29	府中文化振興財団及び府中市が一体的に連携しながら、本市の文化芸術振興の推進主体として取り組むとともに、各主体と交流・連携することで、情報共有や共同での企画検討・実施などにも取り組んでいきます。	【修正案】 府中市及び府中文化振興財団が～各主体と新たに（更に）交流・連携を強めることで、～	推進体制についての説明に変更しました。